原子力防災を知る機会づくりに関する実践の報告

○大杉 遥
（所属　東日本大震災・原子力災害伝承館）

日常から防災に関心を持つ一般市民が主体となり、原子力災害への備えである「原子力防災」を知ることを目的とした勉強会を開催したことを報告する。さらに、勉強会への参加者を対象に実施したアンケートの結果についても紹介する。

「原子力防災」は、原子力発電所で事故が起きた場合などの、放射線からの避難、防護といった身を守るための行動の知識である。2011 年３月に発生した東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故では、地震後の津波による電源損失が原因となり水素爆発および炉心溶融という事象が発生した。現在、日本には廃止措置を行う原子炉も含めて約 60 基の原子力発電所が立地している。さらには、南海トラフ地震、首都直下地震などの大規模災害が予測されており、今後も複合災害に伴う原子力災害への備えが必要である。一方で、原子力防災教育の普及・定着はされておらず、取組に地域差があることが課題である[1]。また、放射線及び原子力エネルギーの利用は、医療・軍事・産業において需要があり、今後も利益の享受が期待されている。以上のことから、原子力および放射線の「リスク」と「安全・安心」について、専門家と一般市民が出会い、対話を行い、協働に発展するための機会となる場所づくりが必要と考えた。

表１　勉強会の開催概要

開催日	2024年4月27日
開催場所	静岡県静岡市
講師	福井大学附属国際原子力工学研究所 安田仲宏　先生
内容	①講義「放射線の基礎知識」 ②講義「原子力防災」 ③トークセッション（質疑応答も含む）
参加者人数	184名 会場参加：57名　オンライン参加：127名

表２　事前勉強会の概要

開催日	【第一回】2024年4月17日 【第二回】2024年4月21日
開催方法	オンライン形式
話題提供者	大杉遥　,主催団体の任意の参加者
内容	【第一回】「放射線について」 放射線の性質と利用について紹介 【第二回】「原子力の災害と防災」 福島第一原子力発電所事故について 当時の避難を経験者から紹介

本勉強会の主催は、防災・減災の活動及び地域貢献活動を行う一般市民によって構成させた団体である。勉強会への参加対象者は、これまで放射線や原子力に関する情報に触れる機会が少ないことが予想され、事前に放射線の知識や原子力防災を知ることの必要性について情報提供が必要と考えた。そこで、勉強会への参加者の募集期間内に「事前勉強会」を開催した。勉強会には、原発の立地都道府県に関係なく、全国各地から 20 代～60 代までの幅広い年齢層が参加した。原子力防災を知ることをきっかけに、過去の原子力災害の経験、原子力発電所の廃止措置、放射性廃棄物の最終処分などの課題についての興味関心が明らかとなり、それらの話題についても対話の場を提供することが可能になることが示唆された。

参考文献

［1］藤本登(2019) 「原子力防災教育の現状と課題」Bulletin of Faculty of Education, Nagasaki University, Combined Issue Vol.5,p203～216